

新庁舎まるごとミュージアム

美術館や博物館のような魅力あふれた庁舎になります

新庁舎を丸ごと「ミュージアム・美術館・博物館」に見立て、豊島区の文化や歴史資産、自然を紹介します。誰もが気軽に集い、楽しめる空間を展開していきます。

日本最大規模

ふくろうコレクション

江戸時代から「すすきみみずく」が郷土玩具として親しまれ、池袋と「ふくろう」の語呂が良いことなどから、ふくろうは、豊島区のイメージと重ねられてきました。

豊島区には、1万4千点の日本最大規模のふくろうコレクションがあります。

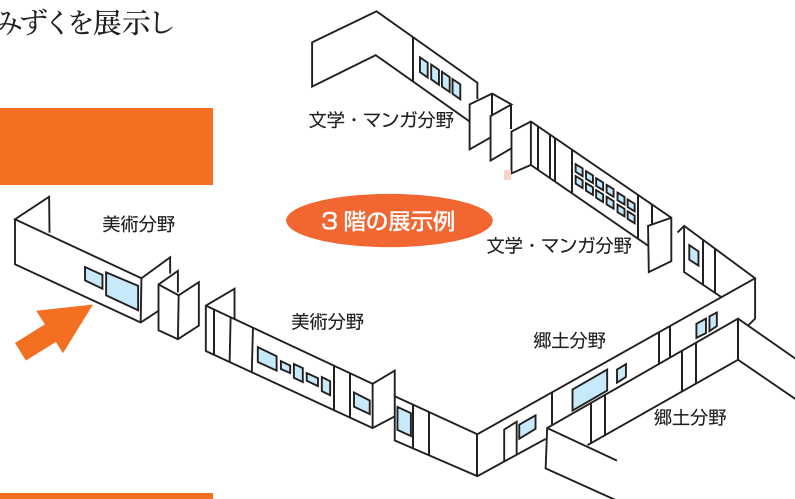
石・木・ガラス製の多彩なふくろうの置物や、彫刻、玩具など、世界各国の珍しいふくろうやみみずくを展示します。



▲森の中のふくろうを想わせる展示ケース(3F)

回廊美術館

各階の中央部には設備室が配置され、その周りを廊下が回廊状に巡っています。その空間を利用し区ゆかりの美術・工芸品や子どもたちの作品などを展示する「回廊美術館」を開設します。



デジタルミュージアム

大画面のタッチパネルを活用し、錦絵をはじめとした絵画作品や、古地図等の郷土資料を順次デジタル化し公開していきます。



▲シックな色合いの展示スペース

アートオリンピア2015

世界に向けて文化発信
国際アート・カルチャー都市へ

アートオリンピアは国内外から作品を公募する世界規模の公募美術展で、無名の才能あるアーティストを発掘し、その活動を支援することを目的に2年に1度開催されます。

その第1回大会となるアートオリンピア2015が2015年6月、国際アート・カルチャー



都市をめざす豊島区の新庁舎を舞台に開催されました。

次回の開催は2017年6月に予定されています。豊島区の文化を世界に向けて発信します。

新庁舎整備の仕組み

新庁舎整備を前提に進めた再開発事業の施行区域は約1.0haでした。南側の日出小学校跡地を中心に区の所有地が約6割、残りの4割が民間の所有地でした。豊島区はこの区の資産を権利変換し、約85億円分の庁舎の床10,740㎡を無償で取得しました。不足する床(14,832㎡と駐車場等1,049㎡)については再開発組合から購入しました。

床の購入費123.8億円とオプション費用等を合わせた費用は135.9億円でしたが、その財源は移転後の旧庁舎地を資産活用し、76年6か月の定期借地権で貸し付け、その地代の一括前払いにより191億円を調達しました。

